COLUMN
米国インターネット事情

インターネットと宗教

前川　徹　早稲田大学国際情報通信研究センター
E-mail: tfm@zf6.so-net.ne.jp

Religion Surfers

クリスマスの2日前，2001年12月23日に米国でちょっと変わった調査レポートが公表された．発表したのはPew Internet and American Life Projectという，家族，コミュニティ，市民生活といった分野にインターネットがどのような影響を及ぼすのかを調査している非営利団体で，レポートの題は "CyberFaith: How Americans Pursue Religion Online" である．つまり，米国人の生活におけるインターネットと宗教のかかわりについて調査した結果である．

この調査によれば，米国の成人の25%に相当する2,800万人が，宗教的な目的を持って，あるいは精神的な支えを求めてインターネットを利用したことがあるという．この数は，米国最大のオークションサイトであるeBayの登録者（3,760万人）よりは少ないが，2001年7-9月期にAmazon.comで書籍を購入した米国人の数（1,640万人）より多く，（このレポートによれば）オンラインギャンブルの利用者やオンライン株取引の利用者，インターネット電話の利用者より多い．

こうした信仰に関した目的を持つネット利用者や精神的な支えを求めてネットを利用している人々のことをこの調査では "Religion Surfers" と呼んでいる．2000年に行われた同様の調査によれば，Religion Surfersの数は約2,000万人だったので，1年間で40%増加したことになる．

では，この調査の結果の一部を紹介しよう．

Religion Surfersはインターネットで何をしているのだろう．この調査によれば，Religion Surfersの67%は自分の信仰に関する情報をネット上で探したことがあると答えている．以下，回答の多い順に並べると，自分の信仰以外の宗教的情報を探したことがある（50%），祈りや祈願を電子メールで送ったことがある（38%），宗教的な音楽をダウンロードしたことがある（38%），精神的なアドバイスを電子メールで受け取ったことがある（37%），オンラインで宗教的なものを購入したことがある（34%）となっている．

Religion Surfersの81%は，信仰心が「非常に強い（very strong）」と答えている．これは1998年にGeneral Social Surveyにおける「あなたは自分が信心深いと思いますか」という問いにYesと答えた米国人が19%に過ぎないことを考えると，かなり興味深い結果である．また，Religion Surfersの74%は，少なくとも週に1回は礼拝や宗教的な儀式に参加していると答えており，86%は少なくとも1日に1回はお祈りを唱えたり，瞑想を行っていると答えている．

ちなみに，この調査は8月13日から9月10日に行われたもので，9月11日に起きた同時多発テロ事件の影響はない．

ウェブ上の神

かなり古い話であるが，1996年12月にTime誌がインターネットと宗教のかかわりを記事にしている．この "Finding God on the Web" という記事によれば，当時最大級の検索エンジンであったAltaVistaを使ってキーワードによる検索を行うと，"God" の場合には41万件，"Christ" の場合で14万6,000件の検索結果が得られ，これは "Bill Gates" の2万5,000件に比較してきわめて多く，オンライン上でさまざまな宗教活動が行われている証であるとしている．

ちなみに，2001年12月末に筆者がGoogleで同様の検索を行ったところ，"God" は3,140万件，"Christ" は941万件，"Bill Gates" は76万件という結果が得られた．1996年のAltaVistaによる検索結果と比較すると，"Bill Gates" に言及しているウェブページは約30倍に増えている一方，"God" は77倍，"Christ" は64倍に増えており，"Bill Gates" よりはるかに増加率が高いことが分かる．

当然のことながら，"God" で検索にひっかかるウェブページがすべて宗教的なものとは限らない．テキスト中に "Oh my god!" という文があれば，ヒットするからである．

そこで，宗教関連のサイトが，Yahoo!（米国）とYahoo! Japan（日本）のディレクトリにどれだけ登録されているかを調べてみた．2001年12月時点でYahoo! には40,719サイトの宗教関連サイトが登録されており，Yahoo! Japanに登録されている宗教関連サイトは1,892サイトであった．つまり日米格差は20倍以上ということになる．**表-1**は日米のYahoo! の「Society & Culture（生活と文化）」に含まれるカテゴリーの中で，日米で定義がほぼ同じだと思われるものを選んで比較してみたものであるが，「犯罪」，「博物館と展示会」と並んで「宗教」は，日米間の格差が大きなカテゴリーであることが分かる．おそらく，宗教に

カテゴリー	米国	日本	米国／日本
Chats and Forums（チャットと掲示板）	34	26	1.3
Crime（犯罪）	5532	202	27.4
Cultures and Groups（文化，民族，集団）	13252	1006	13.2
Death and Dying（死）	498	67	7.4
Environment and Nature（環境と自然）	8026	831	9.7
Food and Drink（グルメ，ドリンク）	5574	1438	3.9
Magazines（雑誌）	208	31	6.7
Museums and Exhibits（博物館と展示会）	5899	198	29.8
Mythology and Folklore（神話，民話と民俗学）	1094	95	11.5
People（人々）	39845	12546	3.2
Religion and Spirituality（宗教）	40719	1892	21.5

表-1　Yahoo! とYahoo! Japanのディレクトリの比較

関する関心度の差が最大の原因なのだろう．

インターネットが宗教を変えるか

インターネットと宗教の関係といわれて，あの「ヘブンズ・ゲイト（Heaven's Gate）事件」を思い出す人も少なくないだろう．1997年3月26日，カルト教団の信者がサンディエゴで集団自殺したという事件である．当時，ヘール・ボップ彗星が地球に近づいていたのだが，これに追随している巨大なUFOに乗って高次元の世界に旅立てると信じて39人の信者が集団自殺を行ったのである．この事件以前にもカルト教団の信者の集団自殺はいくつも起きているのだが，ヘブンズ・ゲイトの場合は，インターネットで布教を行っていたために，このニュースは全米のマスコミの注目するところとなったのである．事件がマスメディアで報道された直後，ヘブンズ・ゲイトのサイト（http://www.heavensgate.com/，現在もアクセス可能）は最も混雑したサイトの1つになったといわれている．

しかし，インターネットを利用していたのはヘブンズ・ゲイトのようなカルト教団だけではなかった．1997年の時点では，すでにキリスト教，ユダヤ教，イスラム教，仏教のほとんどの宗派がインターネットを何らかの形で利用していた．文献3）によれば，1996年以降に特定の宗派や教会によるウェブサイトが急増したのだそうだ．ただ，この文献によれば，当時は布教というより，信者への連絡やサービスといった利用が中心であったという．もちろん，現在は布教を目的にインターネットを利用しているところが多くなっている．

米国では，インターネットを布教のために利用するということはきわめて自然なアイディアなのかもしれない．なぜならば，米国では新しいメディアが登場すると，すぐにそれを布教に使おうとする宗教家が現れているからである．たとえば，ラジオによる布教活動は商業ラジオ局が開設された1920年の翌年から始まり，テレビが伝道の手段として用いられるようになったのは1950年代である．現在でもラジオ放送局のおよそ1/10が宗教色の強い放送を行っているし（1999年時点で商業放送局10,540局中1,098局が宗教放送である），どのCATVサービスでも少なくとも1局は宗教色の強いチャンネルがある（ちなみに，宗教テレビ局は，1980年代にテレビ伝道師のスキャンダルによってかなり数を減らしていたが，1990年代半ば以降，急増しているらしい）．

インターネットは，テレビやラジオより伝道に適しているように思える．それは，テレビやラジオを使う場合よりはるかに費用が少なく済み，かつ容易に世界中にメッセージを伝えることができる．また，ラジオやテレビは一方向性のメディアであるが，インターネットは双方向性を持っている．

特定の宗派や教会，寺院がウェブサイトを用いてミサのような宗教行事をウェブ上で伝え，伝道を奨励し，寄進を募る時代になっている．人気のテレビ伝道師もウェブサイトを開設しているし，宗教放送を行っているラジオ局のいくつかは，ウェブサイトでインターネット放送を行っている．

インターネットを利用すれば，自分が信じる宗教や宗派の情報はもちろん，他の宗教や宗派の情報も得ることができる．インターネットの匿名性を活かして，自分と異なる信仰を持つ人たちのコミュニティに参加することも可能である．そうした行動が，改宗につながるという指摘もあるが，一方では相互に宗教理解が深まるという面もあるだろう．先に紹介したレポートによれば，Religion Surfersの半分が，自分の信仰以外の宗教的情報を探したことがあるという．教義が根本的に異なる宗教が融合することは考えにくいが，お互いを理解し合うことによって，宗教的対立が緩和されるかもしれない．

同時多発テロ事件以来，宗教に関する関心はさらに高まっている．ちょうどグーテンベルグが発明した印刷機によって聖書が市井に解放され，それが1つの契機となって宗教改革が進んだように，インターネットも宗教界に大きな変革をもたらしつつあるのだと思う．そして，その1つが，相互理解による宗教的対立の緩和であることを期待したい．

参考文献

1）Larsen, E.: CyberFaith: How Americans Pursue Religion Online, Pew Internet and American Life (Dec. 23, 2001). http://www.pewinternet.org/reports/pdfs/PIP_CyberFaith_Report.pdf

2）Cooper, J.: Finding on the Web, Time, Vol.146, No.1 (Dec. 16, 1996). http://www.time.com/time/magazine/archive/1996/dom/961216/cover.html

3）生駒孝彰:インターネットの中の神々，平凡社新書（1999）.

（平成14年1月3日受付）